



春 江 だ よ り

10月号

平成25年10月2日(水)

校長 市原俊司

## よき友を得んと思わば、よき友となれ

今回は「因果経」というお経の本の中の一節を紹介します。

この「因果経」という本は、仏陀（お釈迦様）が仏陀の教えを述べたものです。その中で、「本当の友だち」とはどういう人間かについて書いてあります。

朋友に三つの要素あり。一には、過ちあるを見ればすなわち相諫す。

二には、よきことあるを見れば深く随喜を生ず。

三には、苦危にあるとも相棄てず。

友だちという人間関係は、三つの要素でできている。

一つめは、友だちに間違いがあったら、見て見ぬふりをしないで、正しいことをきちんと忠告してあげることができる。

二つめは、友だちによいことがあったら、うらやましがったり、ねたんだりしないで、心から一緒に喜んであげることができる。

三つめは、友だちが苦しい立場にいるとき、身捨てたりせず、一緒に苦しみ助け合うことができる。

この三つの要素があって、初めて、友だちといえるのです。

「よい友だちがほしい。」「本当の友だちがほしい。」と誰もが思うものです。でも一方的に本当の友だちになってくれるように願うばかりでは、友だちはなかなかできません。

まず、自分自身が相手にとっての「本当の友だち」になれるように努力することが必要ではないでしょうか。

よい友だちを得ようとするなら、まず、自分がよい友だちとなることが大切です。